

ひびき

令和8年 2月27日 (金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
3年 学年便り 3月号

かっこいい高学年へ！～“ひびき”として積み重ねてきた1年間～

早いもので、3年生として過ごす日々も、残り1か月となりました。4月初旬は、新しい学年や学級に少し緊張した表情を見せていた子どもですが、日々の学習や行事、仲間との関わりを通して、心も体も成長してきました。今では、学年全体に落ち着きと温かさが感じられるようになっています。

12月には1組、1月には3組、そして延期を経て2月には2組が「つどい」を行いました。開催時期はそれぞれ異なりましたが、どのクラスも、自分たちの学級文化や夢中になっていることを、自分たちの言葉で伝えようとする姿が印象的でした。発表に向けて話し合いを重ねる中で、意見が分かれたり、うまくいかなかったりする場面もありましたが、そのひとつひとつを乗り越えながら準備を進めてきました。



特に2組は、インフルエンザの流行により、延期という経験をしました。「待つ」時間があつたからこそ、「せっかくならもっと練習しようよ」「もっとこうの方がもっとよくなるよ」などと、改めて自分たちの発表を見つめ直し、よりよい形にしようと工夫する姿が見られました。どの学級の発表からも、焼津宿泊体験学習の学年目標である「自分たちの力で 協力して ひびき合う」姿が随所に感じられ、一つの行事だけにとどまらず、“ひびき”として積み重ねてきた歩みが、確かな形となって表れていたように思います。

また、発表する姿だけでなく、発表を聴く姿にも成長が見られました。振り返りの時間には、仲間の話に耳を傾け、よさを受け止め、拍手や言葉で思いを返す姿が見られました。そこには、「ひびき合う」関係が学年全体に広がっていることが感じられました。一人ひとりの頑張りや、集団の力となって表れていた時間でした。

この1年間、子どもは「自分たちで考え、行動する」経験を重ねてきました。話し合いの中で自分の考えを伝えたり、仲間の意見に耳を傾けたりしながら、どうすればよりよい形になるのかを考えてきました。思い通りに進まず、立ち止まったり、迷ったりする場面もありましたが、そのたびに声をかけ合い、役割を見直しながら、もう一度挑戦する姿が見られました。



うまくいったことだけでなく、失敗した経験や悩んだ時間も含めて、その一つ一つが子どもの力になっています。「一人ではできないことも、みんなでならできる」「相手の気持ちを考えて行動することが大切だ」ということを、頭で理解するだけでなく、実感を持って学んできました。仲間と協力することの大切さや、励ましの言葉や前向きな声かけが、集団を動かす力になることを、日々の生活や行事を通して身に付けてきたように感じます。

4月からはいよいよ高学年の仲間入りです。下級生から見られる立場となり、これまで以上に自分たちの言動が周囲に影響を与えるようになります。3年生で培ってきた「ひびき合う力」を土台に、4年生としての新たな一歩を、自信をもって踏み出してほしいと願っています。

残り1か月も、子どもにとって大切な時間です。一日一日を大切にしながら、学年・学級の仲間とともに、気持ちよく次の学年を迎えられるよう支えていきたいと思っています。引き続き、ご家庭での温かな声かけと励ましを、どうぞよろしくお願いいたします。